

## 2021 年第 4 回 IEEE 東京支部理事会 議事録

日 時：2021 年 12 月 7 日(火) 15:00～17:00

場 所：住友電気工業株式会社 東京本社 ホール およびオンライン

出席者：中野 Chair、小林 Vice Chair、重松 Secretary、前原 Treasurer

坂東 COC Chair、粕川 FNC Chair、中村(守)NC Vice Chair、

菅野 TPC Chair、津村 PC Chair、中村(聡)SAC Chair、鈴木 HC Chair、

奥村理事、今井 LMAG Chair、Chaki YP Chair、稲森 WIE Chair、

徳田 Past Chair、滝嶋 Past Secretary、羽渕 Past Treasurer

オブザーバ：西宮 SIGHT IEEE Tokyo Section Chair、Japan Office 百武氏

事務局：加藤氏

幹事会社：田中、西田、武田、浜田 (記)

議題：

1. 前回理事会議事録の確認 【審議】 (資料 1)
2. 2021-22 東京支部理事会構成 【審議】 (資料 2)
3. 2021 年東京支部活動報告 (資料 3)
4. 2021 年東京支部決算予想 (資料 4)
5. 委員会 2021 年活動報告・予算執行状況および  
2022 年活動計画・予算案 【審議】 (資料 5)
  - ・ Chapter Operations Committee (資料 5-1)
  - ・ Fellow Nominations Committee (資料 5-2)
  - ・ Membership Development Committee (資料 5-3)
  - ・ Nomination Committee (資料 5-4)
  - ・ Technical Program Committee (資料 5-5)
  - ・ Publications Committee (資料 5-6)
  - ・ Student Activities Committee (資料 5-7)
  - ・ History Committee (資料 5-8)

質疑応答 (議題 1～5)

6. Affinity Group 2021 年活動報告・予算執行状況および  
2022 年活動計画・予算案 【審議】 (資料 6)
  - ・ Life Members (資料 6-1)
  - ・ Young Professionals (資料 6-2)
  - ・ Women in Engineering (資料 6-3)

質疑応答 (議題 6)

- 7. 2022 年東京支部活動計画【審議】 (資料 7)
- 8. 2022 年東京支部予算【審議】 (資料 8)
- 9. その他
  - ・ SIGHT 報告 (資料 9)
  - ・ [参考] Region10 からのメール連絡一覧

議事：

#### 0. Chair のご挨拶

Chair より開会の挨拶が述べられた。

- 1. 前回理事会議事録の確認【審議→承認】 (資料 1)

報告：Secretary

前回理事会（2021 年 9 月開催）の議事録について説明ののち、審議・承認された。

- 2. 2021-22 東京支部理事会構成【審議→承認】 (資料 2)

報告：Secretary

2021-2022 年の東京支部理事会構成メンバー案について、HC の山田 Vice Chair が退任、新たに三菱電機の河東氏が Vice Chair に就任する案について説明があり、審議・承認された。

- 3. 2021 年東京支部活動報告 (資料 3)

報告：Secretary

2021 年の東京支部活動報告があった。内容は第 3 回 JC 理事会において報告の予定。

- 4. 2021 年東京支部決算予想 (資料 4)

報告：Treasurer

10 月末までの中間会計報告。本年最後の報告となるので、2021 年の事業に関して想定値を示している。収入は 2021 年の予測値の予算比が高くなっており、LMAG は R10 Award を受賞し、関連の賞金および Fund を受領予定だが、中間の数値は既に受領済みの分のみ記載している。支出は LMAG, YP, WIE の支援費が今後計上されるため予測値と少し違う数値になっているが、最終的には予測値に近づく見込み。

- 5. 委員会 2021 年活動計画・予算執行状況

および 2022 年活動計画・予算案【審議→承認】(資料 5)

- ・ Chapter Operations Committee (資料 5-1)

報告：COC Chair

MOU 申請は今回無し。MOU 申請フローに関して、国際会議主催者が支部 3 役に事前連絡をしてもらうことをルール化することを審議提案したい。理由は、支部 Secretary には R10 や本部からメールが多く届く状況で、期限が決められた MOU 申請を見逃すリスクを減少したいため。事前に連絡を受けることで申請元の Chapter についての把握も効率的に行うことができると期待している。承認の場合は、結果を JC COC Chair に共有し、JC 理事会にて報告をする予定。

・ Fellow Nominations Committee

(資料 5-2)

報告：FNC Chair

今年度の取組みとして、国内の主要研究機関に Senior Member や Fellow 申請者をフォローする窓口を設け、継続的かつ組織的にカバーできるような体制作りを行った。この施策が持続的に機能するかは、1 年ほど様子を見たい。2022 年の IEEE Fellow が本部 Web 上に紹介され、日本からは 14 名の方が掲載された。昨年の昇格者も 14 名となるので、過去の推移は下げ止まり状態になっている。各企業および主要研究機関の窓口の方から Fellow Webinar の情報を Fellow 候補となりうる方に展開いただき、1 人でも多く申請者を増やしていきたい。

・ Membership Development Committee

(資料 5-3)

報告：Secretary (MD Chair 代理)

会員数は前年同月比で若干少なくなっているが、前月比だと 64 名増加。Senior Member 昇格者数は 10 月までの審査結果で 41 名(昨年同数)。11 月の結果は未公表だが、昨年と比較して増える見込み。新規会員の加入、継続、Senior Member 昇格、Life Member の申請、東京 Bulletin 寄稿、在籍年数に応じてピンバッジ配布等の活動を行った。今年から LMAG と協力して Life Member においても Senior Member へ昇格してもらう取り組みを始めており、来年もこの活動を強化していく。

・ Nominations Committee

(資料 5-4)

報告：NC Vice Chair

次期役員理事選出について、スケジュールを早めるべきと前回の理事会で意見があり、例年の選出スケジュールを調査したところ第 1 回理事会でスケジュールを報告、第 2 回理事会で候補者の承認の形であった。前回、Chair と Treasurer の選出が第 2 回理事会に間に合わずメール審議となったことを問題視し、次期役員選出はスケジュールを前倒したものと考えている。まず、常設委員会委員長(Committee Chair)の候補者を 5/13 までに事務局へご連絡いただき、その後第 2 回の理事会で候補者の承認。Tokyo Bulletin にて会員の皆様へ候補者の告知を行う。追加指名があれば、8 月末を期

限とするが、無ければ第 3 回理事会で結果を報告し、第 4 回理事会で承認となる。最終的には 2023 年 3 月の総会で承認いただき、次期役員を選出する運びとなる。

• Technical Program Committee (資料 5-5)

報告 : TPC Chair

12/15 に講演を予定しており、この講演で年内の活動は終了となる。2022 年は例年通り講演会を 6 回程度予定しており、LMAG 共催を含めると合計 8 回ほどとなる。YP との連携はハイブリッド形式となる見込みのため、合同講演会として企画ができればよいと考えている。

• Publications Committee (資料 5-6)

報告 : PC Chair

Tokyo Bulletin の No.136 を 12 月末に発行予定。2021 年の発行件数は No.136 を含めて 8 件となる。東京支部および JC ホームページ(HP)はレギュラーな更新に加えて、今年は Senior Member 申請方法の内容更新も行っている。R10 News Letter 投稿は 7 件掲載済で、LMAG から申請があるものは来年に報告予定。HP 応答速度改善は計画通りに進行しており、年内には完了する見込み。検証作業が開始され結果を受領・確認したところ、特に問題はなかったため本番環境に移行する予定である。2022 年の活動計画は今年と同様、Tokyo Bulletin を年間 7~8 件発行し、東京支部と JC のホームページ更新や HP 運営保守関係は PHP バージョンアップのフォロー、各 Committee からのホームページ改善依頼の対応を継続して行っていくことを見込んでいる。

• Student Activities Committee (資料 5-7)

報告 : SAC Chair

前回理事会(9/28)以降、電気通信大学 SB にて研究室配属相談会を開催、東京農工大学 SB でも Latex ワークショップをオンラインにて開催した。11/13 に IEEE TOWERS をオンラインで実施し、参加者は 97 名となった。年間の活動報告として実験レポートの書き方講座、Latex 導入講座等を行った。今後の予定は東京 YP 主催の忘年会に各 SB へ参加依頼、東工大の 4th イベント (コロナウイルスの影響で実施可否を検討中)、スライドの書き方講座を予定している。東京理科大学の講演会および農工大と明治大学 SB の合同企画「サーバ設営のワークショップ」は開催を見合わせ。予算としては今年と同額を計上しているが、コロナウイルスの状況によって金額が大幅にぶれる可能性がある。各 SB の活動計画書は JC SAC で取りまとめているところである。

• History Committee (資料 5-8)

報告 : HC Chair

本理事会で既に承認された通り、HC Vice Chair が河東氏に交代となる。

マイルストーンの活動について、現在申請を準備しているのは 7 件ある。他支部は活動が活性化しており、件数が増えている。

来年の計画について、予算申請は無し。順調に進むと来年は 2 件、マイルストーンの授賞式が開催予定。引き続き申請の準備を行い、JC HC2022 は札幌支部で開催いただきたい。

## ■ 質疑応答（議題 1～5）

### 5. 委員会 2021 年活動計画・予算執行状況

および 2022 年活動計画・予算案 【審議⇒承認】（資料 5）

#### ・ Chapter Operations Committee について （資料 5-1）

Secretary : MOU 申請のフローについては、実際に MOU 申請が 1 件あったが、どの Chapter か不明で停滞したことがあった。事前に支部 3 役に連絡いただくと、Secretary が COC Chair に伝え、審議に繋げるのでスムーズに申請が進む。

Past Secretary : MOU の申請手続きがなされたことを知らせる連絡は、正式な IEEE のシステムを使うので、特定のアドレスから所定のメールが届くため、それをウォッチすることで受信見落としの防止は可能と考える。また、MOU の申請者=Chapter とは限らないし、MOU の申請者が IEEE 会員とも限らないので、申請者が現在の手続き以上に新たに IEEE の別の関係者に連絡を行うというフローは、好ましくない。申請手続き時の問題の本質が、当該会議に関連する IEEE の Chapter 関係者や対応状況を、Section Officer が把握できていないということであれば、MOU 申請者ではなく、主に関わる Chapter が MOU 申請者の状況を把握し、Secretary に連絡をするのはどうか。

Secretary : MOU 申請者が 3 役に連絡をするより、当該 Chapter の責任者が支部 3 役に報告するほうが申請者の負担を減らすのであれば、「MOU の申請者、国際会議の主催者が MOU 締結申請をした際は "当該 Chapter から" 支部の 3 役に連絡することをルール化したい」として審議をいただきたい。

COC Chair : 今の改定案の方が現実的である。その文言で審議願いたい。

#### ・ Fellow Nominations Committee について （資料 5-2）

Past Secretary : 現在、理事会のタイミングで活動状況を報告する流れだが、FNC から企業へ情報を貰えると社内展開がしやすい。例えば、Webinar 等を他支部や企業に定期的に情報提供すると、その情報をきっかけに話す機会が生まれて良いと思う。

FNC Chair : これまでの理事会では、FNC から各活動進捗を集約して報告してきたが、回答は何件かあるもののレスポンスは十分でない。FNC サイドから発信するのは 1

つの案だが、発信できる材料は今回開催されたような **Fellow Webinar** が良いと思われる。**Fellow** へのノミネーションのトリガーがどのタイミングだったのかなどを紐解き、キャッチボールのつなぎ方を検討したい。

**Past Secretary** : 東京支部だけでなく、**JC** への展開を含めて検討して欲しい。取組みの担当は **LRSC Chair** になる。

**Chair** : 2000 年初頭が **Fellow** 人数のピークだが、何故今は半数なのか。

**FNC Chair** : 理由は分析していない。会員数の減少も考えられるが、会員数に対しての **Fellow** の数は事務局にデータを貰って分析したい。

**Chair** : 日本の学術論文も 2000 年初頭がピークであり、それと関連があるのであれば根が深い。多角的に分析をお願いしたい。

**FNC Chair** : 大学では、**Fellow** に昇格して得られるものや評価はあるのか。

**Chair** : 大学での評価は存在する。**Fellow** はプラスの評価になる重要な材料であり、大学教員も取れるのであれば取りたいという思いがある。ただし、大学教員は自分の表彰に時間を割くことが難しく、後回しになってしまう、学会活動全般に割ける時間が減ってきてしまっている。しかし、全員が同じように忙しい中、どのようにマネージしてゴールまで走ったかという経験談のシェアができるため、今回の **Webinar** は非常に有意義で、参考になる。勇気をもらえと思う。

**FNC Chair** : 企業でも同じ状況だと思う。**Fellow** に関しては今ではなく、2-3 年先を見据えた計画をすることもアイデアである。**Webinar** では事前質問も受け付けており、そこでどのようなモチベーションを維持して **Fellow** に辿り着いたのか、話をシェアすると勇気に繋がると思う。今回 **Fellow** に昇格した方は日本在住の外国人が含まれている。日本人の積極性も課題になる。

**HC Chair** : 中国からの申請が多い。

・ **Membership Development Committee** について (資料 5-3)

**Past Secretary** : 会員統計の数値をどのように捉えているのかコメントが欲しい。ピンバッジのアンケートを行ったことは、あらゆる会員にアクセスできる貴重な機会だと思う。可能であればこのタイミングで **IEEE** への感想や要件をいただき、意見をもらうことを一緒にやっていただきたい。

**Secretary** : アンケートはメールでお送りしたので、可能。バッジへの感想や **IEEE** 全体に対する要望があれば同形式で考えたい。

・ **Nomination Committee** について (資料 5-4)

**Past Secretary** : 次期役員理事候補者は、理事会への参加ができることも重要な条件として欲しい。この **IEEE** 東京支部理事会は、それぞれの職務がある中で貢献をいただくのがベースだが、東京支部全体の運営へ助言や意見を出すのも大事だと考えている。

・ Technical Program Committee について (資料 5-5)

Past Secretary : マイルストーン表彰式の際、講演会を行っていると思うが、他支部では若手の教育目的で様々な情報を提供し、イベントを開催している。東京支部でも同様に、EA の観点でも企画を立てるのが良いのではないか。

TPC Chair : EA,YP だけで無く、様々なところに IEEE の活動をリンクするのは非常に重要。今後活動を担う若い方々にもリーチできるものを考えていきたい。

議題 5 の各内容について審議の結果、全て承認された。

6. Affinity Group 2021 年活動計画・予算執行状況および

2022 年活動計画・予算案【審議→承認】(資料 6)

・ Life Members (資料 6-1)

報告 : LMAG Chair

イブニングサロンをようやく対面形式で開催できた。17 名の参加となり、対面形式の効果もあり良い質問を多数聞くことができた。仙台支部 LMAG との共催講演会も開催され、今回はビックデータと人工知能がテーマであった。札幌開催の MAW や SYWL、TOWERS への参加、R10 LMAG 会議に 2 回出席した。企業見学会は会員に期待されているが、問い合わせたところ一般参加の受け入れが難しいと回答があり、現状では再開できない。Life Member の中で Senior Member 昇格を積極的にアピールする活動を行った結果 1 名の応募があり、無事に Senior Member 昇格を果たした。LMAG Tokyo Achievement Award 授賞セレモニーは 12/10 に開催予定。来年の計画として、東アジア LMAG 会議の開催を検討中。その他は本年と同様の予定。Senior Member 昇格は機会を見て何度もアプローチをしたい。

・ Young Professionals (資料 6-2)

報告 : YP Chair

IEEE STEP を 11/17 にオンラインで開催した。このイベントは、それぞれの業界での働き方のアイデア等を学生が得ることができる機会である。議論は IoT や次世代通信システム等 3 つのトピックを中心とした。イベント終了後、参加した学生からは新しい発見があり、非常に興味のある内容だったとコメントがあった。学生たちは、実際の仕事におけるプロジェクトの進行内容、社員のキャリア計画について話を聞くことができ、有意義なイベントとなった。IEEE TOWERS2021 が開催され、「Supporter's Group Award」を東京 YP の 1 名 (山形大学) が受賞した。オンライン勉強会も機械学習とロボット工学

に関するテーマで開催された。講演者のキャリアや課題等を紹介するイベントである YP ラジオの開催、IEEE R10 Sparklers Participation への参加をメインに行った。来年の予算計画では、今年できなかった対面式のイベント予算を計上する。

・ Women in Engineering

(資料 6-3)

報告：WIE Chair

WIE2021 開催に向け役員会を開催。男女共同参画局が開催するリコチャレに応援団体として登録をした。応援団体は 130 団体ほど。WIE Chair が代表として参加し、活動に対して意見交換を行った。11/6 に WIE2021 をオンラインで開催、東京信越 WIE で先導して計画を進め、出席者数は 73 名となった。当日は 2 名にご講演をいただき、イベント終了後には IEEE 入会希望者が 2 名(男性 1 名、女性 1 名)あり、会員登録のエンカレッジを行った。来年は今年と同様の活動を行うが、WIE2022 はオフラインでの開催ができればと考えている。

■ 質疑応答

6. Affinity Group 2021 年活動計画・予算執行状況および

2022 年活動計画・予算案【審議→承認】(資料 6)

・ Educational Activities について

(議題になし)

報告：YP Chair

EA に関して特に新しいイベントは無いが、YP Chair が東京 EA Chair を務めており、7 月開催の EA 委員会に初めて出席をし、EA 活動定義や方針を決定し、イベントの共催を行うことが全会一致で決定した。その後、他の Affinity Group が開催している YP アイデアコンテストや、WIE2021 は SDGs や中学生や高校生等からのアイデアに焦点を当てているため、EA も共催を行った。STEP や毎月開催している勉強会についても同じ理由で共催している。今年のイベントはすべて共催となっているが、いずれは EA 単体でイベントを開催したいと考えており、12 月末もしくは 1 月前半に、講演会の開催を計画中。

議題 6 の各内容について審議の結果、承認された。

7. 2022 年東京支部活動計画【審議→承認】

(資料 7)

報告：Secretary

各 Committee がそれぞれの計画内容を記入した 2022 年東京支部活動計画を説明し、審議・承認された。12/17 の JC 理事会にて Chair より報告予定。

8. 2022 年東京支部予算【審議→承認】

(資料 8)

報告 : Treasurer

2021 年決算予想をベースに 2022 年予算を組んだ。

支出は提出された活動計画を反映し、アフターコロナを想定して理事会や会場費などの各委員会費用を多めに計上している。昨年の広告費はシニアメダルのみで計画をあげていたが、今年の実績を鑑みて送付費用やピンバッジ等の費用も含んで掲載している。来年は対面での活動を多く計画しているため、円滑に進むことを想定して予算を計上している。これについて審議・承認された。

## 9. その他

・ SIGHT 報告

(資料 9)

報告 : Tokyo SIGHT Chair

第 2 回 SIGHT Tokyo ミーティングを開催した。日本の Human Activity 活動を活発にして欲しいと HAC より要請があり、SIGHT メンバーで情報共有を行った。SIGHT として日本の環境とメンバーの専門性を考え、「水害」をテーマに具体的な方向性を考えていくことで決定。「全ての人に楽器の楽しさを！」プロジェクトを始め、バリアフリー楽器の試作品の共有をオンライン上で行った。

SIGHT の役職を決定した。任期については確定しておらず、2022 年から 2 年間とするか、2022 年で任期満了となるかは今後の協議で決めていく。IEEE HAC Global Summit 2021 に参加し、持続可能なプロジェクトを作ることの要請、またそのために必要な外部ローカルコミッティーとの連携について話が上がり、各国が抱える特有の問題も話に出ていたので日本でも固有の問題点を見つけて活動していきたいと感じた。来年度の活動はミーティングを 3,4 回ほど行い現在のプロジェクト継続および新規プロジェクトの立ち上げを考えていきたい。

・ [参考] Region10 からのメール連絡一覧

報告 : Secretary

Region10 からのメール連絡について、届くメールの数とメールの展開先について報告。

### ■ 質疑応答 (議題 7-9)

#### 7. 2022 年東京支部活動計画について

(資料 7)

Past Secretary : 今年から新たに EA としての活動が加わったので、YP とは分けて記載をしたほうがよい。明示的に出すことは意味があると思う。

Secretary : EA は記載しているが YP の一部になっている。今後は分けて記載する。

#### 8. 2022 年東京支部予算について

(資料 8)

Secretary : 今回、各 Committee および Affinity Group から予算が完全にあがっていない

いところがあった。今年の決算もこれからなので、来年3月の第1回東京支部理事会で最終承認になる。現時点でのデータを見て、予算を増やして欲しい等の要請があれば積極的にご提案いただきたい。その結果を来年の3月に審議することでどうか。

**Treasurer**：基本的に申請があった分のみを計上している。申請があった分を第1回理事会に反映するので、現時点でのデータは暫定案となる。

**Secretary**：今回は予算立案が初めてだったので多少遅れたのは致し方ないが、来年の第4回理事会では必ず予算を立て、次期の方々に引き継いでいただきたい。予算は積極的に使って欲しい。困り事は **Secretary** と **Treasurer** に連絡をいただきたい。

## 9.SIGHT 報告について

(資料9)

**Past Secretary**：SIGHT の体制が整い、今後に期待できる状況になってきたこと、感謝したい。活動を広げるにあたり、イベント周知等の対外的なアピールはどのように行う予定なのか。

**Tokyo SIGHT Chair**：メンバーの制約が無い団体なので、まずは YP や WIE のイベント活動で周知頂くことをはじめ、いずれは講演会を SIGHT で主催したい。

**Past Secretary**：他のイベントで周知するのは対外的なアピールに繋がると思う。

**Secretary**：前回理事会で報告があった 2023 年 R10 HAC を仙台で開催する話の進捗はどうか。

**Tokyo SIGHT Chair**：連絡がないので不明である。

## ・Garoon の活用について

(議題になし)

**Past Secretary**：現在、東京支部でもファイル共有サーバ Garoon を使用していると思うが、活用できているか各 Committee の方々の意見が気になる。JC で Garoon の使い方を活発にしようという意見があり、使いにくい等の意見があれば改良・改善が必要。

Garoon 活用の目的は2つあり、1つ目は異なる Committee 同士の情報共有、2つ目は資料のアーカイブ化である。特に後者は期が変わった際に前期がどのような活動を行ったかを Garoon を見るだけで把握できることが重要。理事会や各 Committee の活動をフォルダに入れるのが良いと思うが、簡単にできないのであれば課題として解決すべき。この議論を JC でも開始すべきだと考えている。

**Secretary**：理事会資料は Garoon にアップロードするようになった。他に、Garoon を活用している方がいれば使い方を紹介して欲しい。使いづらいとの意見があれば伺いたい。

以上